

えねみらかフェ
上映会&トーク

(鎌仲ひとみ監督作品)

「内部被ばくを生き抜く」
を見て、学ぼう 

日時：2月16日(土)

13:00~15:30

場所：さざんか会館2F アクティフとっとり

(鳥取市富安2丁目104-2)

入場料：500円

主催：えねみら・とっとり (エネルギーの未来を考える会)

連絡先：080-6173-1318 (山中)

★上映後はトーク



「内部被ばくを防ぐための基礎知識」

講師 井上理さん (グリーンスタイル鳥取代表・薬剤師)

食品の放射能汚染はどのようにしておきるのか、また体内に入った放射性物質がどのような影響をあたえるのか、内部被ばくから家族を守るための知識を一緒に学びましょう。

【映画「内部被ばくを生き抜く」の紹介】

まもりたい！未来のために。

内部被ばくの時代を私たちは どうやって生き抜いていくのか？

原発事故後の日本で 命を守りながら前向きに生きていきたい

全ての人たちへ。 専門家たちと福島からのメッセージ！



鎌仲ひとみ監督

早稲田大学卒業後ドキュメンタリー制作の現場へ。

フリーの映像作家としてテレビ番組、映画を監督。

2003年ドキュメンタリー映画『ヒバクシャ―世界の終わりに』以降、

2006年『六ヶ所村ラブソディー』、2010年『ミツバチの羽音と地球の回転』

の3部作で放射能汚染、被ばく、原発やエネルギーの問題を追い続けてきた。

未知なる危機に備えて ～監督からのメッセージ

2011年3月に起きた東北大地震によって原発が4つも爆発してしまった、その後の世界に私たちは生きている。

大量の放射性物質が放出され、広範囲に拡散したことは解っているが、ではどれだけ出たのか実は正確な情報がない。

放射性物質は環境に溶け込み、生態系に入り込んだ。

呼吸や汚染された水・食品を通じて引き起こされる内部被ばくは、この時代に生きる私たち全員の問題となった。

これからいったい何が起きるのか、正確に予測できる人は実はいない。

ただできることはありとあらゆる情報と可能性を吟味して、「命」を守る努力をするということだ。

放射能は様々な局面で「命」の脅威となりえる。

私たちは生き抜かねばならない、

そのためのささやかな助けとなればとこの作品を作った。

4人の医師が語る経験～広島・チェルノブイリ・イラク・福島～



出演する4人の医師（左から）

肥田舜太郎 被爆医師

鎌田實 諏訪中央病院名誉院長

児玉龍彦 東京大学アイソトープ総合センター長

スモルニコワ・バレンチナ 小児科医

